

F-015

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-151244

(43) 公開日 平成6年(1994)5月31日

(51) Int.Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 1 G	4/42	3 3 1	9174-5E	
	1/015		9174-5E	
	4/12	3 5 2		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平4-322414

(22) 出願日 平成4年(1992)11月6日

(71) 出願人 000006264

三菱マテリアル株式会社
東京都千代田区大手町1丁目5番1号

(72) 発明者 志村 優

埼玉県秩父郡横瀬町大字横瀬2270番地 三
菱マテリアル株式会社セラミックス研究所
内

(72) 発明者 平岡 春生

埼玉県秩父郡横瀬町大字横瀬2270番地 三
菱マテリアル株式会社セラミックス研究所
内

(74) 代理人 弁理士 須田 正義

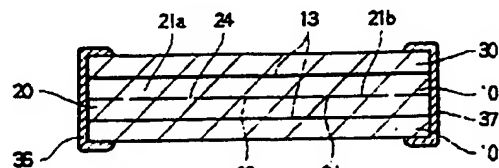
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ノイズフィルタ

(57) 【要約】

【目的】 複数の信号線路に対してクロストークを生じることなく高周波ノイズを除去し小型で高密度に実装できる。また実装コストが安価で済む。

【構成】 方形の誘電体シート10と20と30の積層体35であって、シート10は対向する2つの辺に接続され別の対向する2つの辺とは絶縁される間隔11、12を有するアース電極13をシート表面に備える。シート20はアース電極13が絶縁されるシート10に対応する2つの辺にそれぞれ接続される内部電極21a、21b及び22と、これらの内部電極と間隔24、25をあけて内部電極間を避けて別の対向する2つの辺に接続される分断電極23とをシート表面に備え、シート10を介して内部電極とアース電極との間でキャパシタンスを形成する。内部電極に接続する信号用電極38、39と分断電極及びアース電極に接続する接地用電極36、37とを積層体の側面に互いに独立して形成する。



- 10 第1誘電体シート(第1セラミックグリーンシート)
- 13 アース電極
- 20 第2誘電体シート(第2セラミックグリーンシート)
- 21a, 21b 第1内部電極
- 23 分断電極
- 24 電気的に絶縁される間隔
- 30 第3誘電体シート(第3セラミックグリーンシート)
- 36 第1接地用電極
- 37 第2接地用電極

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 形状の第1誘電体シート(10, 40)と前記シートと同形同大の第2誘電体シート(20, 50)とを交互に積層し、最上層にシート表面に電極の形成されない第3誘電体シート(30, 60)を積層して一体化された積層体(35, 65)を含み、

前記第1誘電体シート(10, 40)は、対向する2つの辺に電氣的に接続され、別の対向する2つの辺とは電氣的に絶縁される間隔(11, 12, 41, 42)を有するアース電極(13, 43)をシート表面に備え、

前記第2誘電体シート(20, 50)は、前記アース電極(13, 43)が電氣的に絶縁されるシート(10, 40)に対応する2つの辺に電氣的にそれぞれ接続される第1内部電極(21a, 21b, 51)及び第2内部電極(22, 52)と、これらの内部電極(21a, 21b, 22, 51, 52)と間隔(24, 25, 54, 55)をあけて前記内部電極(21a, 21b, 22, 51, 52)間を隔てて別の対向する2つの辺に電氣的に接続される分層電極(23, 53)とをシート表面に備え、

前記第1誘電体シート(10, 40)を介して前記第1及び第2内部電極(21a, 21b, 22, 51, 52)と前記アース電極(13, 43)との間でそれぞれキャパシタンスを形成するように構成され、

前記積層体(35, 65)の両側面に露出した前記第1及び第2内部電極(21a, 21b, 22, 51, 52)にそれぞれ接続する第1信号用電極(38, 68)及び第2信号用電極(39, 69)がこの両側面に形成され、

前記積層体(35, 65)の別の両側面に露出した前記分層電極(23, 53)及びアース電極(13, 43)にそれぞれ接続する接地用電極(36, 37, 66, 67)がこの両側面又はこの両側面のいずれか一方の側面に形成されたことを特徴とするノイズフィルタ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、複数の信号線路における高周波ノイズを除去するためのノイズフィルタに関する。更に詳しくは複数の信号線路間のクロストークを防止するに適した積層チップコンデンサからなるノイズフィルタに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 コンピュータ等のデジタル機器では、信号線路に高周波のノイズが混入すると誤動作を生じ易く、しかも他の電子機器等に障害をもたらす恐れのある不要な電磁波を記録から放射する問題点がある。このため、信号線路にはコンデンサ素子を用いた高周波ノイズを除去するノイズフィルタが多用されている。この種のノイズフィルタとしては、単板コンデンサ、2端子型積層チップコンデンサ、貫通型コンデンサ、貫通型コンデンサアレイ等がある。単板コンデンサ、2端子型積層チップコンデンサ及び貫通型コンデンサはそれぞれ1つの信号線路に対して1個用いられ、複数のコンデンサを内

2

蔵した貫通型コンデンサアレイは単品で複数の信号線路に対して用いられる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、上記単板コンデンサ、2端子型積層チップコンデンサ、貫通型コンデンサ、及び貫通型コンデンサアレイには、次に述べる欠点がある。

① 単板コンデンサは、1枚のディスク状のコンデンサ素子の両面に外部電極をそれぞれ設け、そこに一対のリード線を接続している。単板コンデンサはこの構造に起因して回路基板への高密度の実装が妨げられ、電子機器を小型化しにくい。また回路基板に実装する時にリード線を含むことから、図13に示すようにこの単板コンデンサ1を回路基板の信号線路2とグランド3との間に接続したときの等価回路はLC直列共振回路に近似して、ある周波数以上ではノイズフィルタとして機能しなくなる。

② 2端子型積層チップコンデンサは、1つのシート外周辺まで延びこのシート外周辺と反対側のシート外周辺とは間隔をあけてシート表面に内部電極が形成された角形のセラミックシート2枚を一組とし、これら2枚のセラミックシートを内部電極の延びたシート外周辺がそれぞれ反対側になるように重ね合せ、この重ね合せた一組のセラミックシートを複数組積層し一体化してなる積層体と、積層体の両側面にそれぞれ露出した内部電極に接続して形成された一対の外部電極(2つの端子電極)とを備える。この積層チップコンデンサは、単板コンデンサと比べて回路基板により高密度に実装できるものの、コンデンサの内部電極や接地点までの配線の引き回しが避けられない。このため、このコンデンサを含む回路は単板コンデンサと同様に図13に示すLC直列共振回路に近似して、ある周波数以上ではノイズフィルタとして機能しなくなる。

【0004】 ③ 貫通型コンデンサは、例えばディスク状のコンデンサ素子の中央に信号線路が通る貫通孔をあけ、コンデンサ素子の片面の貫通孔周縁に信号線路に接続する第1導体を形成し、コンデンサ素子の他面及びその外周面に第1導体と間隔をあけて接地用の第2導体層を形成し、コンデンサ素子を介して第1導体層と第2導体層との間でキャパシタンスを形成するように構成される。貫通型コンデンサは、単板コンデンサや2端子型積層チップコンデンサのように回路基板に実装する時にリード線や配線を引き回す必要がなく、図12に示す理想の回路に近づけることができる。しかし、貫通型コンデンサはその構造に起因して回路基板への高密度の実装が妨げられ、電子機器を小型化しにくい。また実装に手間がかかるため実装コストの上昇を招いている。

【0005】 ④ 貫通型コンデンサアレイは、例えば方形のコンデンサ素子にそれぞれ信号線路が通る複数の貫通孔をあけ、コンデンサ素子の片面の各貫通孔の周縁

に信号線路に接続する第1導体をそれぞれ形成し、コンデンサ素子の他面及びその外周面に第1導体と間隔をあけて接地用の第2導体層を形成し、コンデンサ素子を介して第1導体層と第2導体層との間でキャパシタンスを形成するように構成される。貫通型コンデンサアレイは、貫通型コンデンサと同様の理由で図12に示す理想の回路に近づけることができ、貫通型コンデンサが有する欠点、即ち高密度化の困難性と実装コストの上昇の問題点を解消する。しかし、この貫通型コンデンサアレイでは隣接して配設された複数の貫通孔のそれぞれにリード線等の導体を通るため、貫通孔の間隔をあまりに狭めてそれぞれの第1導体の間隔を狭めるとリード線等の信号線路に高周波信号が流れたときに、隣り合う2つの第1導体間に存在する浮遊キャパシタンスのために、所定の周波数以上のノイズが伝搬され、クロストークを生じ易い。このため、高密度化にはクロストーク防止の観点から一定の制限があった。

【0006】本発明の目的は、高周波ノイズを除去でき、小型で高密度に実装できるノイズフィルタを提供することにある。本発明の別の目的は、実装コストが安価で済むノイズフィルタを提供することにある。本発明の更に別の目的は、複数の信号線路に接続する内部電極をより高密度に設けても各信号線路を流れる信号の他の線路へのクロストークを確実に防止できるノイズフィルタを提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するための本発明の構成を図1～図4に基づいて説明する。なお、図1、図2及び図4は説明を容易にするためにシート部分を厚さ方向に拡大して示している。本発明のノイズフィルタは、形状の第1誘電体シート10とこのシート10と同形同大の第2誘電体シート20とを交互に積層し、最上層にシート表面に電極の形成されない第3誘電体シート30を積層して一体化された積層体35を含む。第1誘電体シート10は、対向する2つの辺に電氣的に接続され、別の対向する2つの辺とは電氣的に絶縁される間隔11、12を有するアース電極13をシート表面に備える。また第2誘電体シート20は、アース電極13が電氣的に絶縁されるシート10に対応する2つの辺に電氣的にそれぞれ接続される第1内部電極21a、21b及び第2内部電極22と、これらの内部電極21a、21b、22と間隔24、25をあけて内部電極21a、21b、22間を隔てて別の対向する2つの辺に電氣的に接続される分離電極23とをシート表面に備え、第1誘電体シート10を介して内部電極21a、21b、22とアース電極13との間でそれぞれキャパシタンスを形成するように構成される。積層体35の両側面に露出した内部電極21a、21b、22にそれぞれ接続する第1信号用電極38及び第2信号用電極39がこの両側面に形成され、積層体35の別の両側面に露

出した分離電極23及びアース電極13にそれぞれ接続する一対の第1接地用電極36及び第2接地用電極37がこの両側面に形成される。なお、図示しないが、接地用電極36又は37のいずれか一方を積層体の一側面に設けるだけでもよい。

【0008】

【作用】第2誘電体シート20上の隣接する第1内部電極21aと21bの間、また第1内部電極21a、21bと第2内部電極22の間に、接地用電極36、37を介して接地される分離電極23を配置することにより、隣接した信号線路間の浮遊キャパシタンスが実質的になくなり、信号やノイズの線路間のクロストークを解消できる。また、第1誘電体シート10を介して内部電極21a、21b、22とアース電極13との間でキャパシタンスが形成されるため、通電状態にある内部電極21a、21b、22とアース電極13との間に電位差が生じ、コンデンサとして機能し高周波ノイズが吸収される。

【0009】

【実施例】次に本発明の実施例を説明する。本発明はこの実施例に限られるものではない。

＜実施例1＞実施例1のノイズフィルタを図1～図5に基づいて説明する。先ず、同形同大のセラミックグリーンシートを4枚用意した。2枚を第1セラミックグリーンシートとし、別の1枚を第2セラミックグリーンシートとし、残りの1枚を第3セラミックグリーンシートとした。これらのグリーンシートはポリエステルベースシートの上面に例えばチタン酸バリウム系のJIS-R特性を有する誘電体スラリーをドクターブレード法によりコーティングした後、乾燥して形成される。

【0010】次いで第1セラミックグリーンシートと、第2セラミックグリーンシートの各表面にそれぞれ別々のパターンでPdを主成分とする導電性ペーストをスクリーン印刷し、80℃で4分間乾燥した。即ち、図3に示すように第1セラミックグリーンシート10には、対向する2つの辺に電氣的に接続され、別の対向する2つの辺とは電氣的に絶縁される間隔11、12を有するアース電極13が印刷形成される。また、第2セラミックグリーンシート20には、アース電極13が電氣的に絶縁されるシート10に対応する2つの辺に電氣的にそれぞれ接続される第1内部電極21a、21b及び第2内部電極22と、これらの内部電極21a、21b、22と間隔24、25をあけて内部電極21a、21b、22間を隔てて別の対向する2つの辺に電氣的に接続される分離電極23が印刷形成される。内部電極21a、21b、22はシート10とシート20を積層したとき、アース電極13と重なる部分を有する。

【0011】スクリーン印刷した第2セラミックグリーンシート20を2枚の第1セラミックグリーンシート10で挟むように3枚のシートを積層し、最上層には導電

5

性ペーストを全く印刷していない第3セラミックグリーンシート30を重ね合わせた。これらのグリーンシートはそれぞれ本発明の誘電体シートになる。図4に示される積層体35を熱圧着して一体化した後、1300℃で約1時間焼成して厚さ約1mmの焼結体を得た。図4に示すようにこの焼結体をパレル研磨して焼結体の周囲側面に第1内部電極21a、21b、第2内部電極22（図4には図示せず）、分離電極23及びアース電極13を露出させた。

【0012】次に図5に示すように焼結体の周囲側面の内部電極21a、21b、22、分離電極23及びアース電極13が露出した部分にAgを主成分とする導電性ペーストをそれぞれ塗布し、焼付けてそれぞれ信号用電極38、39及び接地用電極36、37を形成した。これにより第1内部電極21a、21bが第1信号用電極38に、第2内部電極22が第2信号用電極39に、及び分離電極23とアース電極13が第1及び第2接地用電極36、37にそれぞれ電気的に接続されたノイズフィルタが得られた。図10はこのノイズフィルタの等価回路図である。図10において図5に示した符号と同一符号は同一構成要素を示す。

【0013】このノイズフィルタの特性を調べるために、別途用意したプリント基板75上にこのノイズフィルタを実装した。プリント基板75の上には3本の信号線路76a、76b及び77がプリント配線され、これらの両側には接地用電極78及び79が形成される。電極78及び79にはそれぞれスルーホール78a及び79aが設けられ、電極78及び79はスルーホール78a及び79aを介して基板75の下面のほぼ全面に形成された接地用電極75aに電気的に接続される。接地用電極75aは接地される。信号線路76a、76bに信号用電極38、38をそれぞれはんだ付けし、信号線路77に信号用電極39をはんだ付けし、接地用電極78、79に接地用電極36、37をそれぞれはんだ付けした。

【0014】この状態で信号線路76a、76b及び77の各一端から高周波信号を入力し、その他端で出力信号を測定し、挿入損失を求めた。その結果、周波数が高くなるに従って、急峻に挿入損失が大きくなり、このノイズフィルタは良好なフィルタ特性を有することが判った。また隣接する信号線路76aと77の各他端で、また信号線路76bと77の各他端で出力信号を測定して、クロストークの有無を調べたところ、このクロストークは検出できない程小さく、従来のノイズフィルタの測定例と比較して非常に改善されていることが確認された。

【0015】＜実施例2＞実施例2のノイズフィルタを図6～図9に基づいて説明する。図6～図9において、実施例1に対応する構成要素の各符号は実施例1の各符号に30を加えている。先ず、実施例1と同様にして、

6

4枚の同形同大のセラミックグリーンシートを用意し、2枚を第1セラミックグリーンシートとし、1枚を第2セラミックグリーンシートとし、残りの1枚を第3セラミックグリーンシートとした。

【0016】次いで第1セラミックグリーンシートと、第2セラミックグリーンシートの各表面にそれぞれ別々のパターンでPdを主成分とする導電性ペーストをスクリーン印刷し、80℃で4分間乾燥した。即ち、図7に示すように第1セラミックグリーンシート40には、対向する2つの辺に電気的に接続され、別の対向する2つの辺とは電気的に絶縁される間隔41、42を有するアース電極43が印刷形成される。また、第2セラミックグリーンシート50には、アース電極43が電気的に絶縁されるシート40に対応する2つの辺に電気的にそれぞれ接続される第1内部電極51及び第2内部電極52と、これらの内部電極51、52と間隔54、55をあけて内部電極51、52間を隔てて別の対向する2つの辺に電気的に接続される分離電極53が印刷形成される。内部電極51、52はシート40とシート50を積層したとき、アース電極43と重なる部分を有する。

【0017】実施例1と同様にして、スクリーン印刷した第2セラミックグリーンシート50を2枚の第1セラミックグリーンシート40で挟むように3枚のシートを積層し、最上層には導電性ペーストを全く印刷していない第3セラミックグリーンシート60を重ね合わせた。この積層体を熱圧着して一体化した。図8に示される積層体65を実施例1と同様に焼成し、かつ焼結体をパレル研磨して焼結体の周囲側面に第1内部電極51及び第2内部電極52（図8には図示せず）、分離電極53及びアース電極43を露出させた。

【0018】次に実施例1と同様にして、図9に示すように焼結体の周囲側面の内部電極51、52、分離電極53及びアース電極43が露出した部分にAgを主成分とする導電性ペーストをそれぞれ塗布し、焼付けて信号用電極68、69及び接地用電極66、67を形成した。これにより第1内部電極51と第2内部電極52が第1及び第2信号用電極68、69に、及び分離電極53とアース電極43が第1及び第2接地用電極66、67にそれぞれ電気的に接続されたノイズフィルタが得られた。図11はこのノイズフィルタの等価回路図である。図11において図9に示した符号と同一符号は同一構成要素を示す。

【0019】このノイズフィルタを別途用意したプリント基板上に実装して、実施例1と同様にその特性を調べた。信号用電極68又は69に接続した図外の信号線路の一端から高周波信号を入力し、その他端で出力信号を測定し、挿入損失を求めた。その結果、周波数が高くなるに従って、急峻に挿入損失が大きくなり、このノイズフィルタも良好なフィルタ特性を有することが判った。また信号用電極68及び69にそれぞれ接続した図外の

信号線路の各他端で出力信号を測定して、クロストークの有無を調べたところ、このクロストークは検出できない程小さく、従来のノイズフィルタの測定例と比較して非常に改善されていることが確認された。

【0020】なお、実施例1及び実施例2では、2枚の第1セラミックグリーンシートと1枚の第2セラミックグリーンシートと1枚の第3セラミックグリーンシートを積層したが、本発明の第1セラミックグリーンシートと第2セラミックグリーンシートの積層数はこれに限るものではない。この積層数を適宜増加させることにより、内部電極とアース電極で形成されるキャパシタンスが変化して挿入損失を変化させることができる。また、実施例1では2つの第1内部電極と、1つの第2内部電極を示したが、第1及び第2内部電極の数はこれに限らず、更に増やすこともできる。更に、実施例1及び実施例2では焼結体の両側面にそれぞれ接地用電極36、37及び66、67を設けたが、いずれか一方の接地用電極を焼結体の一面面に設けるだけでもよい。

【0021】

【発明の効果】以上述べたように、本発明によれば、信号伝達のために用いられる信号線路や信号リードに少なくとも2個以上の信号用電極を電気的に接続し、接地用電極を接地することにより、第2誘電体シートの第1及び第2内部電極と第1誘電体シートのアース電極の間でキャパシタンスが形成されるため、信号線路等に侵入する高周波ノイズを除去することができる。また、第1内部電極及び第2内部電極の間に分離電極を配置し、この分離電極を接地用電極を介して接地することにより、信号線路に高周波信号が流れてもより確実に浮遊キャパシタンスを除去し、隣接する信号線路間相互のクロストークを防止することができる。特に、本発明のノイズフィルタを従来の2端子型の積層チップコンデンサと異なり、多端子型の積層チップコンデンサで構成することにより、信号線路毎にノイズフィルタを設ける必要がなく、複数の信号線路に対して1個のノイズフィルタで足りる。この結果、本発明のノイズフィルタは小型で高密度に実装でき、しかも実装コストを低減することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明実施例のノイズフィルタの図5のA-A線断面図。

【図2】そのB-B線断面図。

【図3】その積層体の積層前の斜視図。

【図4】その積層体を焼成した焼結体の斜視図。

【図5】プリント基板に実装されたノイズフィルタの斜視図。

【図6】本発明の別の実施例のノイズフィルタの図9のC-C線断面図。

10. 【図7】その積層体の積層前の斜視図。

【図8】その積層体を焼成した焼結体の斜視図。

【図9】そのノイズフィルタの斜視図。

【図10】図5に示されるノイズフィルタの等価回路図。

【図11】図9に示されるノイズフィルタの等価回路図。

【図12】インダクタンス成分を有しない理想的なコンデンサの等価回路図。

【図13】LC直列共振回路に近似したコンデンサの等価回路図。

【符号の説明】

10、40 第1誘電体シート（第1セラミックグリーンシート）

11、12、41、42 電気的に絶縁される間隔

13、43 アース電極

20、50 第2誘電体シート（第2セラミックグリーンシート）

21a、21b、51 第1内部電極

22、52 第2内部電極

30 23、53 分離電極

24、25、54、55 電気的に絶縁される間隔

30、60 第3誘電体シート（第3セラミックグリーンシート）

35、65 積層体

36、66 第1接地用電極

37、67 第2接地用電極

38、68 第1信号用電極

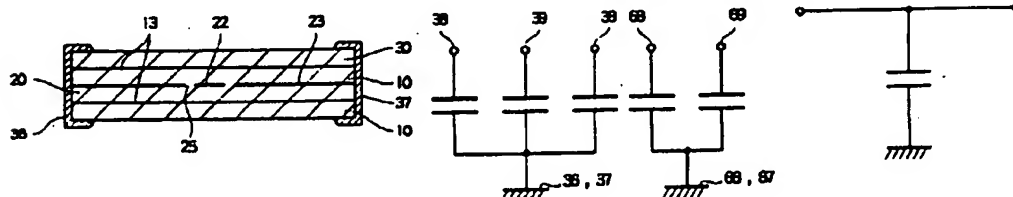
39、69 第2信号用電極

【図2】

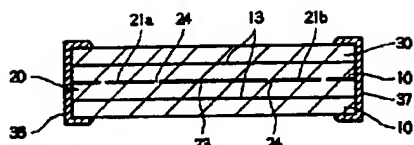
【図10】

【図11】

【図12】

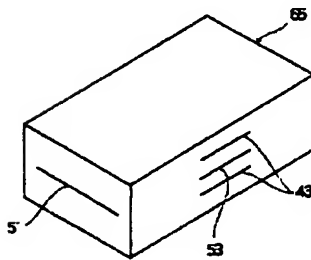


【図1】

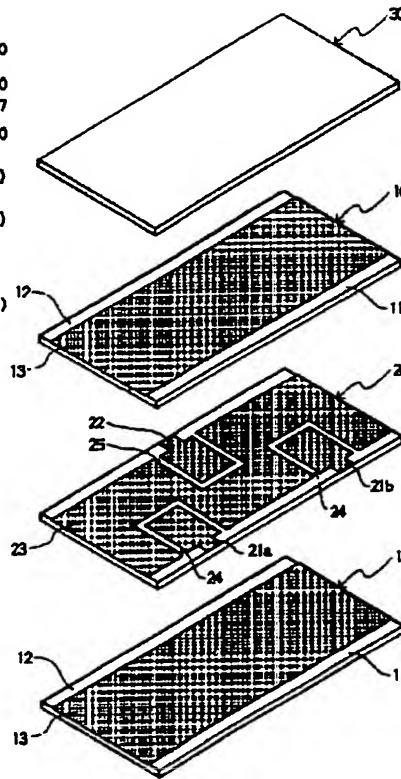


- 10 第1誘電体シート(第1セラミックグリーンシート)
13 アース配線
20 第2誘電体シート(第2セラミックグリーンシート)
21a, 21b 第1内部導体
23 分層電極
24 電気的に絶縁される間隔
30 第3誘電体シート(第3セラミックグリーンシート)
37 第2誘電体用電極

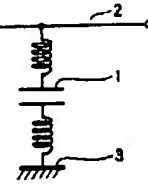
【図8】



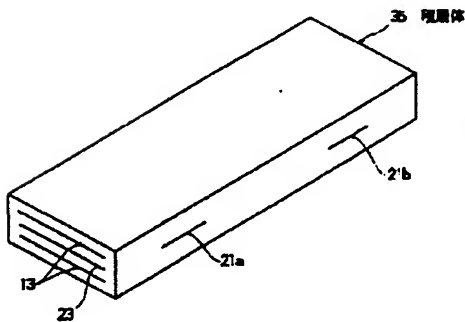
【図3】



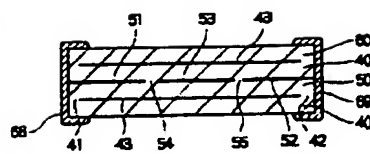
【図13】



【図4】

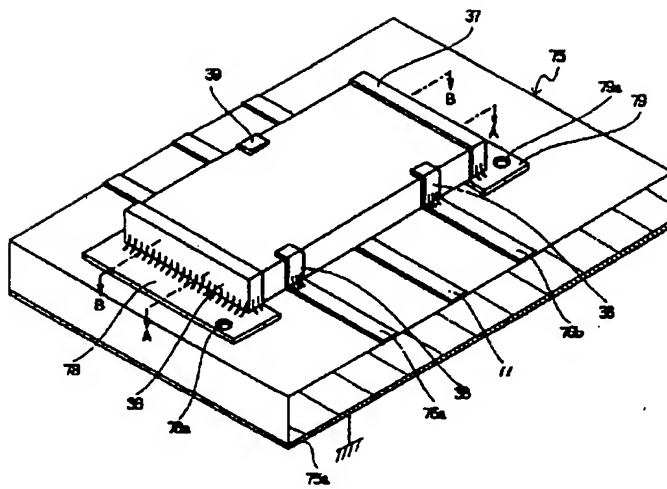


【図6】

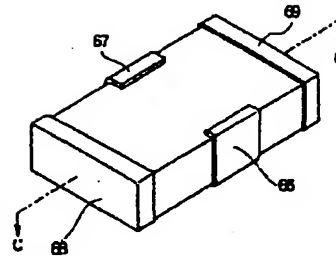


- 40 第1誘電体シート(第1セラミックグリーンシート)
41, 42 電気的に絶縁される間隔
43 アース配線
50 第2誘電体シート(第2セラミックグリーンシート)
51 第1内部電極
52 第2内部電極
53 分層電極
54, 55 電気的に絶縁される間隔
60 第3誘電体シート(第3セラミックグリーンシート)
61 第1信号用電極
62 第2信号用電極

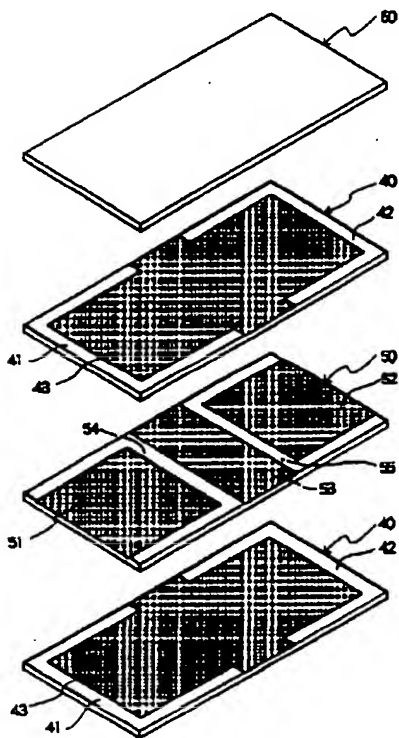
【図5】



【図9】



【図7】



フロントページの続き

(72)発明者 池松 陽一
新潟県南魚沼郡大和町蒲佐972番地 三菱
マテリアル株式会社セラミックス研究所蒲
佐分室内

(72)発明者 内田 彰
新潟県南魚沼郡大和町蒲佐972番地 三菱
マテリアル株式会社セラミックス研究所蒲
佐分室内

(72)発明者 小島 靖
新潟県南魚沼郡大和町蒲佐972番地 三菱
マテリアル株式会社セラミックス研究所蒲
佐分室内